

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272701004		
法人名	有限会社 リブライズ		
事業所名	グループホームかっこの森		
所在地 (電話番号)	〒039-1212 青森県三戸郡階上町蒼前西二丁目9番地988 (電話) 0178-88-2595		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(平成21年 9月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	18,000 ~ 冬期21,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 80.8 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美保野病院、みうらクリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所を開設する前は、周囲がかっこの多い森だったことが事業所名に由来している。アパートや住宅に囲まれ、近くには公園やコンビニエンスストアなどがあり、普段から利用している。以前は下宿だった建物で居室の入口などに改装が施されている。地域や近隣からの入居が多く、男性や女性それぞれの役割があり、日常生活を一緒に過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価については職員全体の会議で改善に向けた話し合いが持たれている。運営推進会議の開催の工夫として、行事と会議を同日にし参加を促している。感染症予防については新型インフルエンザ対策のマニュアルはあるが、他の種類の感染対策の取り組みに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員と管理者で作成し、事業所全体で取り組んでいる。身体拘束などのマニュアル作成や災害対策などを具体的に項目で掲げ、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行事と運営推進会議を同日にするなど工夫を図っている。会議では活動内容、評価の報告、事業計画などを説明し理解を深めている。地域の協力を得て行う災害対策に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 玄関に意見箱を設置し、明記と声掛けを継続している。意見の反映の体制作りが行われており、行事等を通して気軽に意見を頂けるような関係作りに取り組んでいる。重度化等に向けての説明を文書で行い、不安への対応などに取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所の公園やコンビニエンスストアに出掛けたり、地域住民等と地域行事や事業所の夏祭りを通して交流している。日常的に友人の訪問や野菜などの差し入れがある。自立支援の就労の受け入れも継続し、地域と連携している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	それまでの生活や地域との関わりを大切にして、「入居者ひとりひとりの尊厳を大切にします」という、開設当初からの事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	オリエンテーションや定期会議の中で理念の再確認をしている。スタッフルームや食堂などに掲示し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域で行われる演芸会や盆踊りにお誘いがあり参加している。参加した際は地域の方々が車椅子を押して下さり支えられている。系列の事業所と合同で開催する夏祭りでは近所の協力や交流がある。近所の公園やコンビニに出掛け、日常的に交流の機会がある。畑の作物などの差し入れや、友人等の訪問がある。障害者の自立支援につながる、就労の受け入れを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員に伝え、自己評価は職員に割り振りし、管理者がまとめ、全員で作成している。外部評価は職員の全体会議で共有し、改善に向けて話し合いを行っている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、入居者や家族、行政の担当者その他、地域の区長や婦人部、近所の保育園などに声をかけている。生活状況や地域イベント等の行事参加、事故などの報告をしている。会議で頂いた意見等をサービス向上に活かす取り組みをしている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや役場のグループホーム担当者に、ケア計画の業務や支援に関すること等を相談し、助言や指導を得ている。入・退居がある場合にもその都度連絡している。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者が今まで1名おり、支援した実績がある。必要時に活用できるように取り組んでいる。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ事を、研修部会が中心となり伝達研修をし、防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学や面接を行い、重要事項説明書に記載している内容を説明している。入居後も必要な時は家族に再度説明し納得して頂いている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書と一緒に、担当職員から受診状況や体調、お小遣いの使用状況等を「ご家族へのお便り」として写真を添えて、家族に報告している。年2回合同の広報誌を発行している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。今まで意見はなかったが、明記と声かけは行っている。意見等について話し合う体制も整えている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームからの内部異動は行わないようにしている。異動があった時は入居者に動揺がないように配慮している。新人職員などは広報誌等で家族に紹介している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は年間計画を立て、月に1回開催している。新人はオリエンテーションをし内部研修を中心に、2年目以降は外部研修に参加するなど育成に取り組んでいる。働きながら資格取得できるように支援している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸市のグループホーム協議会の会員になっており、研修会や交流会等に参加している。祭りの用具などの貸し借りをしたり、日常的に交流している事業所もある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や自宅訪問など、安心して利用できるように配慮している。使い慣れた茶碗や箸などの小物を、引き続き利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作業や漬物などを教えて頂いたり、一緒に作業を行っている。写真を一緒に楽しんだり、共に支えあう関係がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>今までの生活歴や行ってたこと、日常生活の中で本人の意見や様子を伺い、家族が面会に来た時や連絡をして意向の把握を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族が参加した話し合いや毎月の職員会議の中で、計画作成をしている。ラウンドメモの情報やアセスメント様式を活用し、それぞれの意見を反映している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに計画の見直しをしている。ラウンドメモに一日の飲食や心身の状態を記載して現状を把握し、必要な時は話し合いを行い計画の見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>誕生日には担当職員と個別外出(居酒屋等)をしたり、系列の有料老人ホームと合同の夏祭りを開催している。公用車での外出や受診は無料で行き、看護師の受診支援や近所の買い物等希望にそって柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医師との連携は非常勤の看護師が中心に行い、定期受診の同行を行っている。緊急時の受診は家族に付き添いをお願いし、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における対応にかかる指針についての説明書」を独自に作成し、本人や家族から了承を頂いている。勉強会を行ったり全員で取り組んでいる。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保持を心掛け、記録や個人情報の取り扱いは十分配慮している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や喫茶店へ、誕生日に居酒屋へ行く、気になる畑作業など、その日の気分や希望にそって、できる限りの個別支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養士が一人ひとりの嗜好調査をし、食事を楽しんで頂けるように支援している。煮干の頭取りや下ごしらえ、食事後の片付けなどを職員と一緒にやっている。職員も入居者と同じ物を一緒に味わっている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>気分や体調など、その日の希望にあわせて、特に日程を決めずに行っている。状態にあわせて二人で介助したり、足浴や清拭など臨機応変に支援し、最低週2回以上は入浴できるようにしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>男性の入居者は畑作業やゴミ出しなどの力仕事、女性の入居者は食事や漬物作りなど今までの生活歴や能力を活かした役割などを提供し支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近くのコンビニエンスストアへおやつの買い出し、近所の公園に散歩、ドライブ等入居者の希望に添って支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを日頃から心掛け実施している。研修部会等があり、今後は文書化したり更に共有できるように取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出での事故を防ぐ為に玄関やエレベーターの出入り口にセンサーがあり、日中は鍵をかけず見守りを行っている。日頃から鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災(避難)訓練、消火器を使用して消火の訓練も実施している。訓練後の反省を消防署に提出し、振り返りの取り組みがなされている。地域住民と合同の避難訓練の実施、地震や水害等の災害を想定した訓練やマニュアル作りがなされていない。		地域住民との合同の避難訓練やスプリンクラーの設置予定がある。マニュアル作成も行き、より一層の取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分量等を記録している。摂取量が安定しない時は主治医に相談したり、栄養士がその方の状態や嗜好に合わせ、ゼリーなどで捕食したり、食形態を工夫して支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修会の実施などがあり、玄関や手洗い場に感染症予防の消毒など配置されている。日常的に感染予防に取り組んでいるが、感染症ごとのマニュアルがない。		感染症に関するマニュアルの作成中であり、今後の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のウッドデッキや居間に季節の花を飾ったり、廊下に行事の写真を張り出したり飾り付けをしている。トイレなどの場所がわかるように配慮がなされたり、生活感があり居心地良く過ごせるように工夫をしている。玄関などのセンサーの音にも配慮されている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居生活前に使用していた家具類などを引き続き利用できるように、入居時や入居後ご家族に説明し、居心地が良く過ごせるように取り組んでいる。		

 は、重点項目。